

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4271101901
法人名	有限会社 ムツミサプライ
事業所名	グループホーム たらみ
所在地	〒859-0401 長崎県諫早市多良見町化屋1235番地 (電話) 0957-43-1682

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年12月19日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	15人, 非常勤 5人, 常勤換算 8.45人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費	水道光熱費250円/日・実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	9 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団淳正会 慈恵病院 ・ 小嶺歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、多良見町の化屋交差点から少し住宅地に入った場所に立地している。近くには、夏になるとホテルが飛びかう川があり、窓からは、自然あふれる景色が見渡せる。赤い屋根には、鳥がとまり日常の中にもものどかな雰囲気漂う。2ユニットのそれぞれの棟で入居者が思い思いに過ごされている。職員と入居者が共に支えあい、管理者と職員はホーム全体を良くしていこうと熱意が感じられ、今後の更なる取り組みが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「自己評価の意義と理解」の項目について改善計画シートを作成され、今回の自己評価に活かされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価について、管理者と職員は評価の意義を理解され、職員で項目を分担し取り組まれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は今年度2回開催され、次回は12月に開催される予定である。市職員、有識者、ご家族、職員、管理者、地域住民などのメンバーで構成されており、行事報告や外部評価について、ボランティア受け入れ、ホームについてなど建設的な会議を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ご家族も運営推進会議に参加していただいている。行事にも参加していただくように声をかけられており、ご家族の面会も頻繁にあり面会の際に日々の様子を職員、管理者ともに報告をされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方は、ホームについて周知されており、散歩の際に声をかけられたり、ホームの畑の草を取って下さっている。ホテル見学を行った際には、地域の方が手伝って下さった。ホームの前の広場を子供会のラジオ体操に使っていただいている。子供会の鬼火焚きに誘いを受けられており、気候などを考慮して参加しようとする意欲的である。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『介護とは我が年老いた母を背負うが如く、父の手を引くが如し』を理念に掲げられている。入居者の方々を尊重し一日を大切に過ごしていただきたいという思いが込められている。地域に根づくホームづくりに取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関を入ると、すぐ目にとまる箇所に掲げられており、職員は自分の親をお世話する思いで理念を元に日々のケアに努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの前の広場を子供会のラジオ体操の場所に使ってもらっている。畑の草を取りに来て下さったり、周辺の川へホタルを見に行った際にも、地域の方が手伝って下さった。神社の祭りや、鬼火焚きへのお誘いを受けられおり、気候など条件が合えば、参加したいと意向を示されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、ともに自己評価・外部評価の意義を理解され、今回の自己評価は職員で項目を分担して取り組まれた。前回の外部評価後には、改善計画シートを作成され、より良いホームづくりに意欲的である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、2回開催されている。次回は12月に開催を予定されている。市職員、有識者、ご家族、職員、管理者、地域住民などのメンバーで構成されており、行事報告や外部評価について、ボランティア受け入れ、ホームについてなど建設的な会議が行われている。		概ね2ヶ月に1回開催が望ましいため、利用者、家族、行政、地域、ホーム側の接触を密にする意味でも、回数を増やすことが望まれる。会議の内容として、年間計画を立てたり、開催時に次回の開催の予定やテーマ等を話すことによって、有意義な会議となるよう期待したい。

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の際に報告や、相談をされている。また、電話でも相談されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の中でも多い方は週3回ほど面会があり、管理者、職員ともに日常的な様子や、身体面などの話をされている。遠方に住んでいるご家族には月に1回、面会に来られた際に交流されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や不満、苦情に関する取り扱いについて明記してある。ご家族からは、入居者に関する要望が面会の時などにあり、職員、管理者は真摯に受け止め、対応されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動はあるが、入居者の状態に応じて、徐々に慣れて行くようにされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は案内を掲示し、希望者には実践者研修やグループホーム連絡協議会の研修に参加してもらっている。研修後はレポートを提出したり、カンファレンスで発表し、周知を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諫早市のグループホーム連絡協議会が開催する勉強会や研修会へ参加し、他のグループホームの職員との交流の機会を持たれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居相談があった場合は、管理者や職員が数回に分けて自宅訪問をしたり、ホームの見学に来ていただいたりして、馴染みの関係ができてから入居していただいている。急の入居の場合も、以前入居していた方の知合いの方などであり、ホームを全く知らずに入居になることはない。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、日々、一緒に過ごしている中で、共に生きていることを実感している。また、入居者から「ありがとう」など労いの言葉を優しくかけられると、嬉しく思い、癒されている、と感じており、「何かしてあげたい」と思える、と話された。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中で変化などが見られた時は、カンファレンスの際に話し合い、職員間で情報を共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、職員、ご家族の意見を取り入れながら作成している。職員は、介護計画の目標に沿ってケアにあたるように努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>4か月に一度介護計画の見直しを行っている。1週間ごとの評価と、月に一度のカンファレンスがあり、3ヶ月に一度の評価も記録に残している。また、状態に応じて、介護計画の追加、変更などもされている。</p>		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは、ご家族の宿泊も可能であり、以前、体調が悪い入居者の付添いにご家族が宿泊されたこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と、以前からのかかりつけ医への受診の支援をされている。眼科への受診はご家族の協力を得て、送迎を行っている。入居者の状態に応じて、往診にも対応されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、入居の際に看取りや終末期のケアの希望を聞かれ、出来るだけご家族とご本人の要望に応えたいという思いを持たれているが、具体的な方針やかかりつけ医との話し合い、職員の意識の統一は図られていない。		看取りについてホームとしての具体的な方針を打ち出し、段階に応じてご家族やご本人の意思を再度確認されることを期待します。また、職員間の看取りについての意思の統一を図り研修などを重ねられることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の入居者への言葉かけに留意されているが、気になる部分があった時はカンファレンスの際に注意されている。個人情報の取り扱いの重要性も理解されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事の提供はご本人のペースに合わせて決して無理強いすることはない。ホーム内を歩かれたり、リビングで過ごされたり、様々であるがその人らしさとして捉え、ケアにあたられている。		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、準備、片付けは、入居者の方と職員が一緒に行っている。しかし、職員と入居者は同じテーブルで食事をとることは行事の際のみで、日常的には行われていない。2ユニットで献立を交互に立てたり、主菜、副菜を交互に調理をし合うなどで協力されている。		食事の時間は生活の中でも重要な時間であり楽しみの一つである。職員は介助する一方にならずに、一緒に生活する者として同じテーブルにつき食事を共にすることで会話や気づきが生まれやすい。食事の時間を共有できる体制づくりを検討されることに期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて入浴されている。体調が悪く入浴できない際は、翌日などに入ってもらっている。足浴を楽しんでいる入居者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者には、それぞれ自ら進んで行われる役割がある。職員も、入居者が役割を持つことによって入居者が自信を取り戻し、表情が良くなっていったり、変化があった様子などを気づきとして共有されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	神社へ行ったり、ホームのまわりを散歩されている。計画を立て、近くの温泉へ行き、職員と入居者とともに温泉を楽しまれた。買い物の要望があった際も一緒に出かけられている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロック式になっているが、暖かい気候の時などは、玄関のドアは開放してある。玄関の脇にはスロープがあるが、正面は階段になっているため、スロープの工事を検討されている段階である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、火災の避難訓練が行われている。地震等の災害、緊急時の際の対応や備蓄については検討していくとの前向きな意見を持たれている。緊急時においては、地域の協力が大事になってくる、と意識されている。また、地域の方に対する避難場所として提供する準備はある。		

グループホーム たらみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックは毎食行っており、糖尿の持病を持っている入居者の食事の摂取量にも気をつけられており、常に工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、ご家族が持ってこられたフラワーアレンジメントや、地域の方が持ってこられた細工がさりげなく飾ってある。居間はソファが置いてあり、くつろげる空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとソファはホームから提供されている。掛布団はご家族に持って来ていただいている。カレンダーを掛けられたり、テレビを持ち込まれたり、ご家族の写真が貼ってあるなど、入居者それぞれの居室の空間になっている。		